

1. プログラム概要

【目的】「対日理解促進交流プログラム(JENESYS)」による訪日団経験者の同窓組織の活性化を通じて、日本との繋がりの持続を促進するとともに、日本に対する肯定的な認識と理解の拡大に寄与することを主目的に、「JENESYS 韓国青年訪日団同窓会」を実施しました。

【参加者】韓国の大学生・社会人等合計 88 名

(内訳) 在大韓民国日本国大使館公報文化院選抜訪日団同窓生 88 名

【日程】

■ 同窓会

2024 年 2 月 21 日 (水曜日) (於: ソウル市内)

(1) 日本と各国とのつながりの紹介:

佐藤雅代 北東北三県・北海道ソウル事務所所長

(2) 参加者による活動報告:

グループ別成果及びアクション・プラン発表

(3) 次第

日本関連事業組織紹介 (北東北三県・北海道)

グループ別成果及びアクション・プラン発表

同窓組織「Korea-Japan Alumni Forum (略称: KJAF)」運営委員会紹介

(4) 来賓

川瀬和広 在韓国日本国大使館公報文化院院長

2. 記録写真

	
2024 年 2 月 21 日【基調講演】 北東北三県・北海道ソウル事務所「地域の魅力紹介」	2024 年 2 月 21 日 同窓組織「Korea-Japan Alumni Forum」運営委員紹介

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 韓国 大学生（青森県にてホームステイ）

有益で貴重な経験でした。1か月が経った今も、日本での上すべての経験が新鮮な記憶として残っています。より多くの方々に知っていただき、大切な人には強く勧めたいと思うほど良い機会であり、勉強になりました。初めての日本訪問だったので不安もありましたが、多くのサポートをいただき感謝しています。

◆ 韓国 大学生（青森県にてホームステイ）

今回のプログラムを通じて、日本への愛着をさらに深めただけでなく、大切なご縁にも恵まれました。このような貴重な機会をいただき、本当に感謝しています。

◆ 韓国 大学生（青森県にてホームステイ）

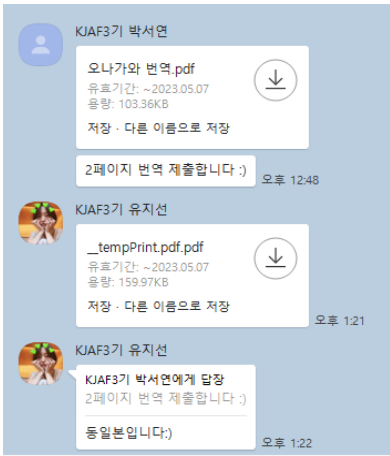
再び集まることのできる貴重な機会に恵まれ、充実感と満足感のある時間を過ごすことができました。また、他の方々の動画を通して、自分では体験できなかった日本での出来事を見ることができ、とても有意義でした。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 同窓会実施協力機関（北東北三県・北海道ソウル事務所）

今回 JENESYS 同窓会に参加し、初めてこのプログラムにより日本に派遣された韓国人の学生の皆さんと接する機会をいただきました。参加者の皆さんが、日本という国を、そして青森という地域を見て感じたことを、素直な感性で表現し、また韓国社会の在り方についても考えるきっかけとしてくださった様子に、深い感銘を受けました。両国の建設的な未来のためには、若い世代がこのようにお互いの国を実際に体験することが非常に重要であることを実感いたしました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、被招へい者の現在の日本との繋がりと活動内容例の紹介

	
2024 年 2 月 25 日（Blog） 退屈だった大学生活を変えてくれた JENESYS プログラムと同期のみんな。他では絶対に経験	訪日後、アクション・プランに基づき、同窓組織の有志で女川観光協会ガイドマップの翻訳チームを結成し、約 1 か月間翻訳作業に取り組まし

することのできない大切な思い出を作ることができました。またそれぞれが成長した姿で再会できる日を楽しみにしています。	た。被災地の状況を韓国に伝える架け橋になればとの思いで作業し、完成したガイドマップの韓国語版は女川観光協会に伝達しました。
--	--

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金